

# 祭光

751号

2023年11・12月  
日本基督教団  
田園調布教会  
伝道部発行

〒145-0071  
東京都大田区田園調布  
3-34-18  
電話 03-3721-2811  
FAX 03-3721-2814  
<https://den-church.jp/>

## 信仰のできること

マタイによる福音書一七章一四〜二〇節

牧師 高橋和人

今日は田園調布教会、教会創立記念礼拝として礼拝を守ります。今年、田園調布教会は教会創立九二周年を迎えました。礼拝の後、小さな記念の集いを用意しています。そこではこの教会の歩みが紹介されますが、教会学校で紹介されたものです。最初は主イエスの十字架と復活、ペンテコステに始まり、教会の創立を遡るときに聖書のペンテコステを意識しています。それは、わたしたちは主イエスの教会であり、イエスに根拠を持つことが示されています。

今日有様で、またおいでになる」と天使が告げた言葉は今か今かと待っていました。終わりの時がまもなく来るのを待っていたのです。この待望の日を過ごすためには日々の積み重ねによって形づくられることが必要です。いつ来るかは分からないのですから。計画を立てることはできないのです。教会の積み重ねるべきことは、御言葉が語られ聞かれることです。それは礼拝です。

わたしたちの信仰告白は「福音を正しく宣べ伝え」「バプテスマと主の晩餐との聖礼典を行うこと」と告白されています。その御言葉の説教と聖餐と洗礼の聖礼典です。それが教会の軌道つまり線路になります。信仰告白によって線路の上を脱線することなく進むこととなります。説教と聖礼典は伝道の軌道となります。礼拝を守り、受洗者を生み出すのです。こういう線路が敷かれたことの始発

点は主イエスになります。十字架への道を弟子たちと歩み始めたところから始まります。ですから、この線路を辿ることは、主イエスの歩みに身を寄せることとなります。主の歩みを辿ることは聖書を辿ることです。今日は教会の創立を覚えて、これまで積み重ねてきたことを継承して聖書を読み重ねることにいたします。

一七章では、主イエスは高い山の上に弟子三人だけを連れて登り、御自分が神の子である姿を示されました。そして山を下り群衆のところに行かれました。普段の生活の場所です。そこに一人の男がひざまずきます。息子が治されることを願いますが弟子たちにはできませんでした。主の前にひざまずきます。ひざまずき、憐みを求める姿は礼拝するものの姿です。

主イエスはなんと信仰のない、よこしまな時代なのかと激しく嘆かれます。この嘆きは父親に対してではなく、もっと大きく、この親子を救うことのできない時代や時代の風潮を嘆いておられるのです。そして、「あなたगतといつまで共におられようか、我慢しなければならぬのか」と言われます。もうここにはいられないと言わんばいいです。しかし、主はそうよになさいませんでした。世を見捨てようとはなさらなかったのです。

主はこの時代を問われます。「よこしまな」は「曲がった」の意味です。曲がっているのは神様との関係のことです。神様との関係が曲がってよじれていると、神をいないものにして、利用したりします。神を利用するの